

港区教育史編さん期間の変更について

1 背景(港区教育史編さんの進捗について)

平成29年1月に開催した第1回港区教育史編さん委員会で「港区教育史編さん基本方針」が策定され、平成29年度から、監修者・執筆者が決定し、基本方針に基づく資料の調査・収集及び執筆が始まっています。

○これまでの港区教育史編さん委員会開催状況

- ・平成28年度第1回港区教育史編さん委員会（平成29年1月10日）
- ・平成28年度第2回港区教育史編さん委員会（平成29年2月27日）

2 スケジュール及び成果物等の見直しについて

【経緯】

平成29年度から、資料調査部会の監修者が区立小学校を中心に資料の調査・収集を実施しています。その作業の中で想定以上に貴重な資料が学校だけではなくその他施設にも存在していることが判明しました。そのため資料調査部会から、資料の分析と共に関連する施設、関係者への調査に十分な期間を確保することが必要であるとの意見がありました。

資料調査部会は、「新港区教育史 くらしと教育編」の編さんも担っており、区民の視点からみた教育テーマの掘り起こしが必要です。そのため、行政資料に留まらず、地域の方へのインタビューなどの情報収集も含めた調査・検証が必要となり、当初予定されていた期間では不十分となりました。

また、「港区教育史編さん基本方針」において、『収集した資料及び今後新たな研究・検証に基づく資料は継続的に収集を行い、管理・保管して後世に残すとともに、定期的に検証すること』とあり、資料収集・検証の重要性を挙げています。

よって、精度の高い港区教育史とするためには執筆の基礎となる資料研究期間を十分に設けることは必須となります。

既刊の教育史編さんにおいても、編さん事業発足の前に、教育史研究室が設置され、7年の研究期間を経たのち、5年の期間をかけて編さんを行っていました。

【理由】

上記意見を受け、監修者会議の中でスケジュールの適正な時期について検討したところ、平成29年度から平成31年度までのスケジュールは非常に短期間であるとの意見や、資料収集・調査期間は2年間、執筆期間はその期間と重ならず2年間で要することが一般的との意見もあり、調整が必要となりました。

各監修者からの意見を参考にした上で、当初刊行予定であった平成31年度末から3年間延長し、平成34年度末に刊行するスケジュール案を見直すこととしました。

ただし、当初刊行予定だった平成31年度には、資料の調査・収集過程で選定された写真等を使用し、視覚的に見せる普及版を制作して、WEB版で公開します。

※スケジュールの見直しに伴う期間延長及び新たな成果物となる普及版の制作により、従前の経費見積りに対して、新たな予算が必要となります。